

富山県の持家住宅の実態
 一家のつくりと間取りの傾向一

富山女子短大 金岡トモコ

〈目的〉 持家比率、戸建て率、住宅規模など居住水準が全国的に最上位にある富山県において新規に供給される持家住宅の実態を検討することを目的とする。

〈方法〉 昭和55年以降富山県の都市部（富山市、高岡市とその周辺の市町）に所在する民間業者によって供給された建売型住宅、注文型住宅に居住するものを対象に、アンケートによる調査を昭和60年に実施。回収 500票。住宅平面の採取は 300票。

〈結果〉 【建売型】も【注文型】も、木造で在来工法による2階建てが最も多い。屋根は瓦葺きが9割前後で、型や色彩は多様化しているが、外観のデザインを和風のイメージで受け止めているものが7割近くである。2部屋以上の続き間を保有するものが6割前後、必要感は9割に達している。仏壇置き場を持つものは8割強で「ぜったい必要」と考えているものが45%前後、「なくてもよい」は約10%である。一方、洋間応接間の保有率は4割強であり、「ぜったい必要」と考えているもの約10%、「なくてもよい」と考えているもの約40%である。台所の型はDKが多いものの、【注文型】では「独立型」が約28%、「LDK型」25%みられる。2階にも便所を設置しているものが約24%、6割前後が洋風便器である。室数が多い割に、1階は続き間、縁側に占有され、子供室や夫婦寝室は2階にあり、都市型と類似している。間取りは大きく三つのタイプに分けられる。最も多いのは間口が狭く奥行方向に伸びる「町家系譜型」、次いで玄関のホールを中心に左右に部屋を振り分ける「ホール型」、伝統的農家の型を現代化した「農村系譜型」がある。

注) 本報は筆者も参加した富山県住宅需給調査研究の一部である。